

# 舞踊表現にみられる 創造性について —「秋田おばこ」を例として—

鈴木 裕美子

## 1. はじめに

舞踊の現象を通して、作者・演者・観者に共通のイメージが存在した時、はじめて伝達が実現する。作者は演者に内的衝動を伝達し、演者は作者や他の演者との共感と観者への伝達を可能にし、観者は作者や演者の実感を追体験することができる。この時、作舞・演舞・観舞の場において、創造性が大きな役割りを果たす。

秋田県仙北地方に伝わる「秋田おばこ」は、17～18才の娘の若さや美しさを讃え、働き者であることの誇りを表現した踊りである。本研究は、この「秋田おばこ」をとりあげ、初心者が踊り込んでいった結果、どのように踊りを解釈したか。また、観者が初めて踊りを鑑賞した時、どのようなイメージを描いたかを分析し、舞踊の表現的特性と感受的特性をとおして、舞踊表現にみられる創造性について追求しようとするものである。

## 2. 「秋田おばこ」の踊りの特徴

現在踊り継がれている「秋田おばこ」は、大正年間に笛王齋が編曲し、娘の佐藤貞子が歌い踊って広めたものである。踊り方は、時代によって、踊る人の年代によって、地域によって多少異なるが、農作業や山菜採りの動作、労働の喜びや恋心・若さを讃えた心象表現などが盛り込まれており、練習の進捗は“1回1ふり”といわれるように、間のとり方、手さばき、足のはこびが難しい踊りである。また、秋田の手踊りの特徴でもある手の平返しや、腰の屈伸による重心の移動によって、きびきびした躍動感の感じられる踊りである。

## 3. 研究方法

### 1) 演者のイメージ

昭和58年8月から昭和59年3月にかけて、秋田県仙北郡在住の演者を招き、福島県在住の教員平均10名(1回以上参加した者は53名)が指導を受けた。練習場所は、福島大学剣道場および福島市立福島第一小学校体育館である。練習回数は29回で、毎週1回、各2時間行った。そのうち直接指導を受けたのは9回である。指導者は2名が交替で指導にあたった。練習は、3番まで完全に覚えるまでさらに18回続けられ、次の2段階を経て10

名が全員習得したものとす。

### (1) 第1段階(1番の習得)

昭和58年8月12日の練習初めから、12月15日の福島大学ダンス発表会(於福島市公会堂)で賛助出演として発表するにいたるまでの4ヶ月間。発表会では、隊形変化を繰り返した。

### (2) 第2段階(2・3番の習得)

昭和59年1月9日から、7月31日の新英語研究会全国大会(於ホテル聚楽ナポレオンの間ステージ)の文化行事に出演するにいたるまでの7ヶ月間。

演者のイメージは、初めて取り組んだ時から、1年間の練習の経過を追って、全員で検討したイメージを記述した。

### 2) 観者のイメージ

1)で習得した「秋田おばこ」を、演者1名が、昭和58年11月、昭和59年6月(2回)、11月に、計4回、福島大学体操場および剣道場にて、教育学部学生計131名に鑑賞させ、踊りから感じたイメージを自由に記述させた。

踊りは、初回のみ1番を、他の3回は1～3番を踊り、各番3回ずつ繰り返した。また、動きそのものから受けるイメージをみるために、無音で行い、衣裳も着用せず運動着で踊った。

## 4. 結果と考察

### 1) 演者が描いたイメージと根拠となる動き <全体的なイメージ>

- 女性らしさ……目線が指先を追う。腕のふりが大きく流麗。
- 若さ……目線が遠くを見る(未来を見つめる)。手首を極限まで屈曲させる。手の平(自分の心)を見せる。腰の位置が上下に大きく変化する。片足立ちが多い。
- 働き者であることの自負と労働の喜び……農作業の動作と休憩時の動作。お囃子に合わせた腕の回旋。

<各番のイメージ>……表1参照。

### 2) 観者の受けた印象と描いたイメージ

動きにこめられた思いや意味を感じとることは大変難しく、観者の舞踊経験や生活体験、性、年齢、地域や時代によって、踊りから受ける印象や描くイメージは様々である。機械化が進み、田植えや稲刈りなど、昔ながらの農作業の風景すら見られなくなった今日、農作業や山菜採りを日常的には経験していない大学生が、農作業の動作をもとに構成された「秋田おばこ」を正確に解釈することは困難であったかもしれない。しかし、ほとんどの観者が、

- 女性的な表現である。

- 手や足、目線の動きが大変印象的である。
  - と答え、
  - 豊作を願う民衆の気持ち。
  - 収穫が終わって神に感謝する気持ち。
- など、表現内容を比較的正確にとらえている。

この踊りから想像した「国・地方」「雰囲気」「情景」「感情」、印象に残った「動作」「身体部位」「動き」「変化」,「その他」については表2～表10のとおりである。

## 5. まとめ

舞踊表現にみられる創造性を探究するために、秋田県の民踊「秋田おばこ」をとりあげて、演者の創造性、観者の創造性を追求したところ、次の結論が得られた。

### 1) 演者の創造性

「踊り込むうちに、稲や鎌が感じられるようになった。また、各動作を実際に行っている気持ちや風景を感じ、観者にもその心境や風情が感じられるように踊りを深めていきたいという欲求が高まってきた。そして、昔の人たちの生活を想像し、思い入れを感じ、一緒に踊っている仲間を気づかい、さらに、観者や、まだ見ぬ人々、あるいは子孫たちに、自分たちの生き様を伝えたいという表現欲求が生じた。」と多くの演者が述べているように、踊り込むほど、創造力が作用し、具象的・抽象的イメージが広がっていくようである。

農作業の動作を託した踊りを踊ることによって、農民の思いを呼びおこしたり、労働の喜びを味わったり、若い娘になりきることができる。演者が作者の意図をくみとった時、創造性が十分に発揮できたといえる。

### 2) 観者の創造性

動きを見ただけで踊りを解釈することは難しいが、踊りの雰囲気や、こめられた思い、動作そのものの特徴はとらえられる。時代が変化して、もとの動作が不明瞭になっても、感情・運動ともに共感を得ることは可能である。観者の想像が表現内容を正確にとらえた場合、あるいは共通点を見出した場合、「感情喚起」による創造がなされたといつてよい。

## 6. おわりに

時代を超えて、多くの人々に踊られてきた踊りは、自然で説得力があるため、今回、民踊をとりあげて、舞踊表現にみられる創造性を探ろうとした。今後、個々をとりまく環境や個人の条件をも関連させて、動きの創造性について追求していきたい。

最後に、本稿の作成にあたり、「秋田おばこ」を指導いただいた、秋田県仙北郡在住の小川洋子さん、黒木嘉代子さんに感謝の意を表します。

表1 各番のイメージ

<p>〈1番……仕事にとりかかる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○朝早く、山を仰ぎ見て、仕事に出かける準備をする。</li> <li>○束ねた菅をかかえ、鎌を持つ。</li> <li>○ふり向いて一息入れ、塵刺とした気持ちで周囲を見まわす。</li> <li>○背の高い草をかきわけて、田圃まで歩いて行く。(草わけ)</li> <li>○自分の若さや美しさ、働き者であることを誇る。</li> <li>○仕事の合い間に一息ついて太陽を仰ぎ、汗をぬぐう。</li> <li>○労働の喜びに心が浮き立ち、歩き出す。</li> </ul>
<p>〈2番……作業中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○稲を両手いっぱいかかえ、管でしぼる。</li> <li>○自分の仕事に対する誇りを示す。</li> <li>○ふり向いて一息入れる。</li> <li>○鎌で稲を切る。</li> <li>○刈り取った稲を盆に載せ、神に供える。</li> <li>○自分の若さや美しさ、働き者であることを誇る。</li> <li>○仕事を一段落終えて、周囲の様子をうかがう。</li> <li>○労働の喜びに心が浮き立ち、歩き出す。</li> </ul>
<p>〈3番……仕事を終える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仕事を終えて、家に戻る準備をする。</li> <li>○刈った稲を背負って歩く。</li> <li>○稲をしばり直して、はぎにかける。</li> <li>○周囲の様子をうかがう。</li> <li>○労働の喜びに心が浮き立ち、歩き出す。</li> </ul>

表2 国・地方 (名)

国・地方	東洋	アジア	東アジア	南アジア	アラビア	中国	日本	沖縄	インド	タイ
人数	20	12	8	4	34	30	3	7	3	

表3 雰囲気

1番	2番	3番
なめらかな力強い流れ	めらかな力強い流れ	思いをはした雄大な流れ
ゆるやかな流れ	めらかな力強い流れ	雄大な流れ
やさしい	めらかな力強い流れ	雄大な流れ
優しい	めらかな力強い流れ	雄大な流れ

表5 感情 (%)

項目	1番 N 131	2番 N 48	3番 N 48
豊作を祈る	6.9	2.1	2.1
雨ご	1.5	6.3	0
収穫を感謝する	3.1	4.2	0
喜び	2.3	0	6.3
自然に恵まれることに願う	2.3	2.1	0
恋	2.3	2.1	0

表7 身体部位

1番	2番	3番
手	手	手
足	手の平	足
目	線の首	腰
手	腕	腕
腕	足	目の線

表9 変化 N 48 (名)

	1番	2番	3番
激しくなった	8	0	
大きくなった	5	1	
スピードがでた	3	1	
明るくなった	2	2	
軽快になった	1	3	
あまり変わらない	2	2	

表4 情景

1番	2番	3番
月夜	稲田	刈り作
波川	田風	海
海水	雨水	水風

表6 動作

1番	2番	3番
天を仰ぐ	物を運ぶ	自然の神や霊と対話する
月をながめる	献上する	空を仰ぎ見る
太陽を仰ぐ	天を仰ぐ	人を呼び招く
神に捧げる	何かを持っている	
田植え	機織り	

表8 動き (%)

項目	1番 N 131	2番 N 48	3番 N 48
重心移動 (高低の変化)	3.1	2.1	2.1
横の移動	0.8	4.2	2.1
スピード	3.1	2.1	0
リズム	0.8	2.1	4.2
ターン	0.8	4.2	0
めりほり	0.8	0	0

表10 その他

人	女性、乙女、天女
衣	蓑、着物、きらびやかな衣裳
持ち物	扇、楽器、剣
音	昔の楽器、笛、鐘、太鼓、鼓、鈴
動物	鳥、白鳥、鶴、蝶、へび、龍